



## 「運」の正体

岡田 安弘

人類の誕生は偶然が重なった結果だ。中学の生物の時間に習った。「およそ20億年前、ひとつの単純な細胞が揺らぎ、別の細胞を取り込むという偶然から全ては始まった」。先生は声を張り上げていた。

神秘は続く。細胞の司令塔とも言えるミトコンドリアがDNAに影響を与え、複雑な生命の進化を生む。今も偶然は至る所に潜んでいる。それを我々は運の良し悪しなどと呼ぶ。かく言う当方の浅知恵は、進化も運とみなして話を進める。

### ルーキーの運

プロスポーツでは、1年目の選手をルーキーと呼ぶ。今年のプロ野球はルーキーの活躍が目立つ。阪神のドラフト(指名入札)1位、佐藤輝明の強運は後述する。2位の伊藤将司(JR東日本)は巨人戦に初登板、初勝利(7回1失点)の快挙。日本ハムの1位、伊藤大海(苫小牧駒沢大)はソフトバンク戦で7回までに11奪三振。楽天の早川隆久(早大)、DeNAの牧秀悟(中央大)ら開幕早々から活躍する選手は、数え挙げればきりが無い。

アンチ阪神の方には申し訳ないが、佐藤輝明は他球団も入札、矢野監督がクジを引き当てた。阪神にとっての好運の始まりだ。

5月2日の甲子園、対広島戦をTV観戦。佐藤は6番打者、守備は右翼。背筋を傷めた主砲の大山に代わって、初めて4番サードを任される。2点を追う5回裏、塁が埋まって打順が回ってきた。それだけでファンの胸を踊らせる。カウント2-2から低めの球を泳ぐように片手ですくいあげ、軽々と右翼スタンドへ運ぶ。

開幕以来、8本目の本塁打が今季チーム初の満塁弾。続く6回裏も満塁。そこでもヒット。この日は5打点、開幕から30試合の合計24打点。セリーグの打点2位に割り込む。満塁で迎

えた打席は、6番打者の時を含めて7打数4安打(5割7分1厘)。この記録を破るのは相当に困難だろう。大山の休養に遭遇した好運もある。強いて不運を挙げるなら、新型コロナウイルスの感染防止で無観客試合だった。

### 実力も運のうち

ハーバード大の哲学教授で政治学者のマイケル・サンデルのNHK・BS「サンデルの白熱教室」をご覧になった方ならおわかりと思う。能力主義の是非を各国の学生に問い、何が正しいかを議論する。例えば、有名なサッカー選手ロナウドの収入が教師の8000倍というのは高すぎるかどうか。才能の高さは生まれつきの能力か、努力の賜物か。意見が分かれる。

サンデルの新著「実力も運のうち」(早川書房)が売れている。運で成功するのは正義か。道徳と運の関係の是非を問うている。人類の叡智を結集してもここまで。運と偶然の謎は解明できていない。

### 議論すれど謎は謎

そこで、大学で哲学の教壇に立つ甥っ子に聞いてみた。メールの返信から理解不能な部分を省いて書くと次のようになる。

運に関する哲学的思考には2種類あるそうだ。1つは、運を偶然性という確率的なものと、それを求める意思との複合的概念。つまり、この世には現実としての偶然が存在する。しかも、それは運とか不運と言うときに、「あってほしい、あるいは、あってほしくない」という意思が投影されているとする議論。

2つ目は古代ギリシャのアリストテレス以来の伝統ある議論。道徳は運という要素に左右されるかどうかポイントらしい。正しい行為をするかどうか、そのときの状況などの運に左右されるという。

▽

運と偶然の絡み合いを書いた本は多い。いずれも議論は展開すれど、正体を暴くには至っていない。素人の当方は、そのことの方が謎だ。